

活動報告

- 平成26年11月20日 平成26年度香川大学瀬戸内圏研究センター学術講演会の開催
「海」、「文化・観光・歴史」、「医療」に関する研究者から次の講演をいただいた。

「1988年に行った伊吹島の調査」と現代の伊吹島

- ・稲田道彦（香川大学経済学部教授）

イリコの島 伊吹島の現状と課題

- ・三好兼光（郷土研究家）

「瀬戸内圏の特異性と島の魅力」

- ・長嶋俊介氏 鹿児島大学 国際島嶼教育研究センター教授

「沿岸海域の低次生産」

- ・多田邦尚（香川大学瀬戸内圏研究センター長）

内湾域の微小動物プランクトン - 小さな体で大きな役割

- ・神山孝史（水産総合研究センター東北区水産研究所特任部長）

近くの胎児、遠くの胎児（何故胎児に「遠近」があるのか?）

- ・竹内康人（旭川医科大学 客員教授）

- 平成27年11月20日 平成27年度香川大学瀬戸内圏研究特別シンポジウムの開催
「海」、「文化・観光・歴史」、「医療」に関する研究者が次の講演をいただいた。

今回のシンポジウムは「瀬戸内法制定40周年。瀬戸内海国立公園指定80年経過」を

記念し、平成27年度学術交流会と合同で、特別シンポジウムとして開催しました。

このため、演題も豊富になり時間を拡大して行いました。

在宅医療の動向とオーリーブナーズの役割

- ・大原 昌樹（香川県・綾川町国民健康保険陶病院 院長）

瀬戸内海国立公園の父 小西和の主な功績

- ・山本 一伸（さぬき市教育委員会 生涯学習課文化財係）

四国遍路の江戸時代における変化

- ・稲田 道彦（香川大学経済学部教授）

離島のアートプロジェクトと地域活性化

- ・室井 研二（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

瀬戸内海の漁業を支える地場流通と消費

～グローバル社会における地域的「食」のあり方

- ・佐野 雅昭（鹿児島大学水産学部教授）

報道の立場から見た瀬戸内海の過去、現在、未来

- ・ 泉川誉夫（四国新聞社執行役員広報局長）

総合討論

- ・ 講演者ならびに会場の参加者

コーディネーター：多田 邦尚（香川大学瀬戸内圏研究センター長）

- 瀬戸内圏研究センターの主要な役割に関する報告

行政、企業等との協議会および活動団体や地域住民からの意見を収集して新たな検討課題を発掘、それらを反映させるための施策の検討、セミナーやシンポジウム等の開催、研究成果の公開、行政、企業等との受託研究や共同研究の推進、瀬戸内圏研究に関する情報の収集とデータベース化を実施した。